

「はばたけ世界へ南東北総体 2017」

舞台裏からみたインターハイ

安永三郎

2017. 9. 6～27

平成29年度全国高等学校総合体育大会は宮城・グランディ21にて8月17日から20日に行われた。東日本大震災から6年半、ここ利府町も多大な被害を受けたところだと聞いた。町並みをよく見ると、あちらこちらに爪あとを残している。

そんな中で宮城県水泳連盟の安住会長さんにお土産を持っていった。期間を通していつもニコニコしておられるのが印象に残った。安住会長には、最終日に「御心使い」をいただいた。

申し込み時点でのことだが監督のところに（ ）付でコーチの欄もあったほうがよいのではないかと思う。引率責任者の名前、監督の名前の記入欄があるのだが、実際に指導しているのは社会人指導者であり、実際に申し込み責任者の先生は引率の名前は書いても、監督の名前は空欄になっている学校が多々あるように記憶する。したがって思い切って監督（コーチ）というようにしたらどうでしょうか。

参加人数は初めて70人の大台に乗った。とはいっても男子41人女子29人である。女子の人数が少ない。後で聞くとどの種目もそういう傾向にあるらしい。参加校は61校であった。

個人種目はさておき、シンクロダイビングチームは男子7チーム、女子4チームであり女子において多少寂しい選手層であった。このあたりにも女子選手の減少が影響している。

注目すべきところは、女子高の荒井祭里選手（甲子園学院）と男子高の西田玲雄選手（桃山学院）であった。互いにジュニア時代から世界に向けてのチャレンジをしている。今年から始まった特別優秀選手の表彰に王手をかける2年連続、同種目に優勝をしている。来年3連覇をかけての演技が最注目される。また、板・高ともに抜群の安定感のある中秀太郎（小松市立）の演技にも注視せざるを得なかった。本当に楽しみな選手たちが増えてきた。今後ますます飛込競技を盛り上げてほしい。

本大会で気づいたことがある。大会は本当にすばらしくほぼ完璧に遂行された。一言言わせていただければ、もう少し高校生の出番がほしかった。高校生が活躍している姿を存分に見せることをアピールできたであろうか疑問である。このことは今後の課題として「テーマ」にしていきたい。